

H26年度 第2回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：平成27年2月9日（月）14:00～16:30

場所：本山町プラチナセンター ふれあいホール

1 議事等

(1) 地域アクションプランについて

1) 嶺北地域アクションプランの進捗状況等について

- ・重点的な取り組みを中心に第3四半期の進捗状況等を説明

2) 平成27年度嶺北地域アクションプラン（案）について

- ・拡充1件、修正7件を含む地域アクションプラン（案）について説明
- ・案について了承された

(2) 産業振興計画の改定等について

1) 第2期産業振興計画（Ver.4）の改定のポイントについて説明

2) 高知家プロモーションについて説明

3) 平成27年度移住促進策のバージョンアップについて説明

4) 平成27年度観光振興部の取り組みについて説明

【意見交換】

<嶺北地域アクションプランの進捗状況等について>

- ・特になし

<平成27年度嶺北地域アクションプラン（案）について>

- ・計画の実施に当たっては、財政的、人的な支援もあるけれども、国の制度の誘導を第一に考えていただき、それが無い場合には、今までのように県独自で新たな制度を作ってもこの計画については実施をするんだという姿勢に変わりないか。
→ この計画が県政の浮揚の第一に挙げている。ご意見のように、今新しい事業を県がやっというとならば国の方に要望して、地方創生の動きもあり、提案をしながら、中山間地域、産業振興計画のために頑張っていく。県の姿勢については、従前と同様に対応することに変わりはない。
- ・通行止めの復旧に関して、汗見川から愛媛県中央市へ抜ける道が3年ぐらい通行止めのままだが、愛媛の方からは春の溪流釣りなど人がいっぱい来ている。長いこと通行止めのままでは観光・交流を断っているような感じになってくる。大変長い道路事情もあるだろうが整備を進めてほしい。
→ 道路復旧については箇所付けして進めている。本山土木事務所へはご意見について伝えさせていただき、できることは早くやるというようなことで、対応するようにしていく。

<産業振興計画の改定等について>

- ・移住に関して、前回から空き家不足が言われているが、地方に空き家が多数出て、どう活用しようかという記事があった。それと絡めて、家を処分するにも処分のしようがないとか、家財道具があるとか、自前ではなかなか難しいという。
移住用に提供されるような建物に対しては、何かの形で撤去してあげられないか。
→ 中の物の整理や処分について、今年度から民間の方々も使えるような形の補助制度を用意している。
- ・累計で 200 人ぐらいという移住者がどんな仕事をしているのか聞きたい。移住してくる人も、この会場のある中心地へ来る人ぐらいじゃないかと思う。自分の住んでいるところは、今、住めそうな空き家が 6 軒ぐらいあるが、すごい山奥で今日の積雪量は 23 センチだった。そんなところへも来てくれそうな人がいるのだろうかと思う。
最近、地域で集まった時に“空き家ゼロ作戦”やろうとなったのだが、具体的に何をしたら良いかわからない。こんなことをしたら良いというものがあったら教えてもらいたい。今のままの現状維持では絶対に地域が無くなってしまう。
→ 嶺北地域の移住者について、結構若い方がいることや割とリタイア世代の方もいると伺っている。ただ、移住者の仕事に関して、県庁内でもよく言われるところであるが、個人情報の問題があり、組織として集計し公にすることは難しい。話にあった空き家等々については、土地の所有者が貸しても良いと言っているなら、田舎暮らしネットワークや行政の方に情報をいただければ、色々ご相談いただけると思う。
→ 仕事について、県の窓口を通じた 97 組（12 月末まで）に関しては、一番多いのは就職で約 4 割。その次に多いものとして起業、自営業の方。あとは地域おこし協力隊や公務員への就業、一次産業、その他の職種となっている。ただ、仕事については追い切れてない部分もあり、不明の方が 20 組程度というような状況である。県全体での総数の分析はできてない。
- ・「林業学校の開校」とあるが、現時点でこの林業学校について、場所とかカリキュラムの内容とか、どういうことを目指すとか、簡単に分かっている範囲内で教えていただきたい。
→ 現時点では、4 月から基礎コースと短期コースと専門コースとあり、基礎コースと短期コースがこの 4 月から開講する予定。基礎コースは、いわゆる林業の直接的な担い手となる技術者養成を行うもので、短期コースは、1 週間とか 3・4 日とかの短期的で NPO の方や地域支援協力隊の方といった方たちを対象にした小規模なもの。カリキュラム等は今後検討が進められる。基礎コースは、年間を通じた研修で林業全般の座学から実技、インターンシップを行うもの。実技関係では先進的な事業体に行き講習会もやる予定。それにより、林業に関する諸々の資格も取れるものとなっており、基礎コースの 10 名と短期コースの 10 名を募集することとしている。
4 月からは香美市の林業の研修センターでの実施を予定している。今後の検討会において、正式な場所やカリキュラムについて検討していく。
- ・県立の施設か、別の学校法人的な法人になるのか。
→ 今のところ学校法人でなく、農業大学校のような形になるのではないかと聞いている。

- ・林業の山での専門家というかプロフェッショナルをつくるのであれば、山の現場に近いところ、山にするのが一番良いと思う。これから会で検討するという事なので、ぜひそういう視点でも考えてほしい。当然、山の現場のフィールドがなければそういう人は育たないと思うので、そうした面の選定もまさしく同じような考え方でぜひ今後取り組んでほしい。
- ・自伐型林業が流行だが、私は30年来自伐林業をやっている。5年ぐらいになるが、私のところへも大学生とか市内の方から、山の木を切る体験をしたいという人が何人か来てくれている。いろいろところで研修は受けても、研修成果を確認するための場所が欲しいと言われる。林業学校を出た方が現場で自分の能力を試してみたかったら、道具もあるので、ぜひ紹介していただけたらと思う。
- ・あかうしが脚光を浴びて品不足で非常に高値が増えているという中で、高齢化とともに戸数が減ってきたことが最大のネック。今、れいほく未来で導入、増頭を図っており希望もあるが、畜産は非常に資金が必要で支援をいただきながらでないとは難しいと自分達も思っている。かれこれ40年近くやってきたが、今ほど脚光を浴びたこともないし、赤身のおいしさというふうなことで全国的に出ているこの期に農家数減少に歯止めをかけられればと思いつつながら頑張っている。
→県でも増頭対策事業として受精卵移植にも取り組んでいる。
- ・「高知家」のプロモーションについて、重点品目で食材関係が多く感じる。例えば木材関係では、家具に変えるとか、雑貨用の木工製品を作って売ると、立米単価でいうと60万円~80万円になる。小さな小物で量が出ないものでは立米600万円ぐらいの付加価値が付いて、それが町とか嶺北全体に落ち、そこから雇用を生み出すという市場の流れがある。「高知家」のプロモーションの中でも売しやすい商品というよりは、売られていない商品というのも重点項目の中に入れていただいて、量が出なくてもある程度、付加価値が付くような木工製品とか、そういったものも視野に入れて、また別の媒体を利用していくような取り組みもしていただければ、非常にありがたい。
- ・れいほく八菜の販売額について、土佐れいほくの園芸部の支部の総会があったが、ここ10年で、半分ぐらいに販売額も減ったというような状態である。移住した若い人も農業をしているが、一部には園芸部に入っていると思うが、所属せず自分でインターネットで販売している方もいる。この土佐嶺北という園芸部を大事にするためには、園芸部にも入って皆さんの指導も受け、また広報協力もして、販売額を上げていかないと、この目標はどんどんと下がって、「れいほく八菜」は少なくなっていくのではないかと思う。

●お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp